The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	a+a 美学研究　第13号　執筆者紹介
Author(s)	
Citation	a+a 美学研究. 2019, 13, p. 160-160
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/90104
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

Kunihiko Katsumata
from *Right Angle – white next to white*

執筆者紹介

北村仁美｜きたむら・ひとみ

1973年生まれ。東京国立近代美術館工芸課主任研究員。大阪大学大学院文学研究科博士課程中退。専門は近代工芸史。

宮川智美｜みやがわ・ともみ

1987年生まれ。大阪市立東洋陶磁美術館学芸員。お茶の水女子大学博士後期課程単位取得退学。専門は、近現代陶芸、近代工芸史。

高安啓介｜たかやす・けいすけ

1971年生まれ。大阪大学大学院文学研究科准教授。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。愛媛大学法文学部准教授を経て現職。専門は、デザイン思想史。著書『近代デザインの美学』（みすず書房）。

岩﨑陽子｜いわさき・ようこ

1973年生まれ。大阪大学文学研究科博士課程修了。博士（文学）。現在、嵯峨美術短期大学准教授。専門はフランス美学・哲学。味と匂い研究会、Perfume Art Project代表。香りのアートのプロジェクトや展覧会を国内外で多数キュレーション。

近藤存志｜こんどう・ありゆき

1971年生まれ。フェリス女学院大学文学部教授。エディンバラ大学大学院社会科学研究科博士課程修了。PhD (Edin.)。専門はイギリス芸術文化史、デザイン史。著書に『時代精神と建築』（知泉書館）、*Robert and James Adam, Architects of the Age of Enlightenment* (London: Routledge)、『光と影で見る近代建築』（KADOKAWA）など。

山内貴博｜やまうち・たかひろ

1971年生まれ。秋田公立美術大学景観デザイン専攻准教授。東京芸術大学大学院美術研究科博士後期課程修了。博士（美術）。専門は環境デザイン。

佐藤紗良｜さとう・さら

京都市立芸術大学非常勤講師。大阪大学大学院文学研究科博士課程修了。博士（文学）。専門領域は、歴史的建造物の修復をめぐる諸課題を中心とした建築・庭園・修復史。

田中 均｜たなか・ひとし

1974年生まれ。大阪大学准教授（COデザインセンター／大学院文学研究科）。専門領域はドイツ語圏を中心とする近代美学、芸術における「参加」をめぐる諸問題。著書に『ドイツ・ロマン主義美学』（御茶の水書房、2011年）、訳書にクリストフ・メンケ『芸術の至高性』（共訳、御茶の水書房、2011年）など。

橋本順光｜はしもと・よりみつ

1970年生まれ。ランカスター大学大学院博士課程修了。博士（歴史学）。現在、大阪大学大学院文学研究科准教授。専門は日英比較文学。編著に『欧州航路の文化誌』（青弓社）。

平井直子｜ひらい・なおこ

大阪新美術館建設準備室主任学芸員。大阪大学大学院文学研究科博士後期課程単位取得退学。博士（文学）。イタリア政府給費奨学生としてミラノ工科大学建築史科留学。専門は、デザイン史、西洋美術史、博物館学。

森山明子｜もりやま・あきこ

武蔵野美術大学造形学部教授。東京藝術大学美術学部芸術学科卒業。専門はデザイン情報学、デザインジャーナリズム。著書は『まっしぐらの花——中川幸夫』『石元泰博——写真という思考』『新井淳一——布・万華鏡』『デザイン・ジャーナリズム 1987→2015』など。

勝又公仁彦｜かつまた・くにひこ（写真）

美術家、写真家。京都造形芸術大学准教授、多摩美術大学非常勤講師。早稲田大学法学部卒業、インターメディウム研究所修了。主なコレクション：東京国立近代美術館、世田谷美術館、沖縄県立博物館・美術館、上海視覚芸術学院、相模原市、清里フォトアートミュージアム、株式会社資生堂。

Arts and Media

（年1回発行）定価＝本体1,800円＋税／編集：『Arts and Media』編集委員会

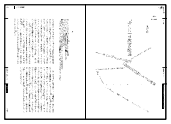
百学連環の知

大阪大学文学研究科アート・メディア論研究室が発行する本誌『Arts and Media』は、アートとメディアの原初の関係に改めて注目し、芸術をもう一度、情報伝達の手段として見てみたい、そんな熱望から生まれた雑誌である。あるいは逆に、現在、情報伝達のツールとして生まれ、活用されている様々な手段が、今まさにアートへと変貌しつつあるその瞬間を切り取ってみたい。収録される論考は、映画や写真、絵画、建築、文学、マンガ、新聞・ラジオ、演劇、博物館学などなど、実に多彩だ。この「祝祭的な混沌」が生み出すジャンル不明性こそは、ただ本研究室にのみ醸成可能な知的テンションであると自負するものである。

遺伝子の多様性が生命の安全装置として機能するように、我々は文化の多様性を保つことこそが、現代社会に対するある種のセーフティネットになるものと心から信じている。文だの理だのといった狭隘な専門跼蹐の殻を打ち破り、百学連環の知の饗宴をとくと愉しんでいただきたい。

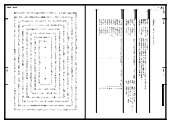
（編集長　桑木野幸司）

2018_ volume 08
永遠に続く
コミュニカシオンと差延が
私たちを知者たらしめる。



2017_ volume 07
繚乱する知と美，
共感覚的観照を求めて

2016_ volume 06
渾沌から紡ぎ出す，
境域的思索



2015_ volume 05
学知が秘める，
快楽の極致

2014_ volume 04
牙なき時代の学問

2013_ volume 03
知性を腐らせるな

http://artsandmedia.info

■購入方法＝ご注文は、全国の書店（ネット書店含む）までお願い致します。また、松本工房オンラインショップでも直接ご購入いただけます。http://shop.matsumotokobo.com

a+a 美学研究

Studies in Aesthetics and Art Criticism

定価＝本体1,500円＋税
編集：大阪大学大学院
文学研究科美学研究室

美学はそんなに美しくない

伝統の理解はいかに未来の生活につながるのでしょうか。
複数の文化のあいだで共通する価値はあるのでしょうか。
技術の進歩によって人間の知覚はどう変化しているでしょうか。
機械にはできない人間らしい創造とは何なのでしょうか。
芸術家はいかに社会の闇にかかわるのでしょうか。
社会活動のなかで美を問うことはあるのでしょうか。
芸術作品はどれほど日常の品々より優れているのでしょうか。
紙の雑誌というメディアはどのくらい意味をもつのでしょうか。
たまたまこの冊子を手にとってしまった皆さん。
数々の問いから、思わぬ可能性がひらかれるかもしれません。

12号 シアトロクラシー
観客の美学と政治学

序論

演劇の批判と弁護
クリストフ・メンケ

ルソーとシアトロクラシー
――『ダランベール氏への手紙』における「見せもの」の近代性
田中 均

モーリッツ「演劇への不幸な傾倒」における演劇狂と健全な市民
――教育的言説の批判的考察
梶原将志

「大衆をほぐす」
――シアトロクラシーと映画（館）
海老根 剛

音楽＝劇の批判的構成のために
――ベンヤミンとアドルノの美学を手がかりに
柿木伸之

今日のアートにおける批判とは何か――参加型アートを中心に
石田圭子

演劇とアール・ブリュット
――ヴァレール・ノヴァリナの俳優論を中心に
井上由里子

「花の下」連歌における〈観客〉の発生と融解
土田耕督

ボエティウス『音楽教程』における音楽観
――音楽の三分類と音楽家の規定をめぐって
田之頭一知

音楽の欠片1　開演前
河口 篤

美学は言葉を考える
高安啓介

エッセイを書く面白さ
山下泰春

音楽の欠片2　勝手な聴き手
河口 篤

11号 デザインへの視点

序論

一九世紀後半の英国におけるインテリアの位置
北村仁美

ドイツの近代工芸運動――ミュンヘンとドレスデンを中心に
池田祐子

柳宗悦の佛教美学
猪谷 聡

デシグナーレ考
横道仁志

つくる・風情・風流――日本におけるデザイン意識の古層
土田耕督

手・様・体――筆跡の語られ方をめぐって
萱 のり子

イタリアの「デザイン」教育
平井直子

ウルム造形大学における脱バウハウス思想
高安啓介

映像による美的コミュニケーション教育
要 真理子
前田 茂

フランス第二帝政期の装飾芸術と展覧会
――「産業応用美術中央連合」の創設をめぐって
島本英明

新しいミュージアムのかたち――工場・製作室・研究所
三木順子

ロボットをめぐる展示の問題
村上 敬

朝顔のジャポニスム――園芸と工芸と文芸
橋本順光

英国人リバティの日本視察
平光睦子

■購入方法＝ご注文は、全国の書店（ネット書店含む）までお願い致します。また、松本工房オンラインショップでも直接ご購入いただけます。http://shop.matsumotokobo.com